

平成26年度「全国学力・学習状況調査」における
高蔵 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成26年4月22日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語・算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 【国語A・算数A】	主として「活用」に関する問題 【国語B・算数B】
<ul style="list-style-type: none">・ 身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・ 実生活において不可欠であり、常に活用できているようになっていくことが望ましい知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・ 様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

高蔵 小学校「平成26年度 全国学力・学習状況調査」の結果について

1. 教科に関する調査結果の概要

① 学力調査(国語A・B、算数A・B)結果

・本校の結果

国語A	全国平均正答率を下回っている。
国語B	全国平均正答率を下回っている。
算数A	全国平均正答率を下回っている。
算数B	全国平均正答率を下回っている。

(資料) 本市・全国の結果【平均正答率】

		国語A	国語B	算数A	算数B
平成24年度	本市	79.4	52.2	70.4	56.1
	全国	81.6	55.6	73.3	58.9
平成25年度	本市	60.3	46.3	74.6	56.5
	全国	62.7	49.4	77.2	58.4
平成26年度	本市	69.1	52.6	76.2	55.4
	全国	72.9	55.5	78.1	58.2

② 学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ・全領域で全国平均を下回っているが、「読むこと」に関しては、ほぼ全国平均並みである。 ・言語に関して、漢字や基礎的な語句の意味の理解に課題がある。
	よくできた問題	「～たり…たり」など、複数の事柄を並列の関係で書く問題は全国平均と比べて正答率が高い。
	努力が必要な問題	漢字を読む問題や、情景描写を正しく理解し、その効果を捉える問題については、全国平均と比べて正答率が低い。

国語B	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ・全国平均正答率を下回っているが、昨年度より上昇していた。 ・言語に関する問題においては、正答率が全国平均を上回った。 ・無解答率が全国平均より高い問題が多く、自分の考えを「書く」ことに課題がある。
	よくできた問題	「詩」の表現の特徴に関して、その工夫を捉える問題の正答率が高かった。
	努力が必要な問題	メモをもとに、個人の考えを推測する問題については、無解答率が高く、正答率も低かった。

算数A	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ・全国平均を下回っているが、ほぼ同程度であり、昨年度より上昇していた。 ・図形領域において正答率が高かった。 ・計算の順序についての理解に課題がみられる。
	よくできた問題	平行四辺形の性質を利用した図形のかきかたについての問題は正答率が高かった。
	努力が必要な問題	分数の相等及び大小についての問題については、正答率が低かった。

算数B	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ・全国平均を下回っているが、昨年度より上昇していた。 ・全国平均と比べて無解答率が高い問題が多くあり、わからないと思った問題に対して、あきらめてしまう傾向が見られる。
	よくできた問題	問題場面を読み取って、計算の見通しをもち、(2位数)×(1位数)の筆算をする問題は正答率が高かった。
	努力が必要な問題	リズムの規則性を見出し、2つのリズムが重なる部分を、公倍数に着目して記述する問題に関して、正答率、無解答率ともに高かった。

③ 学校での学習状況に関する調査結果

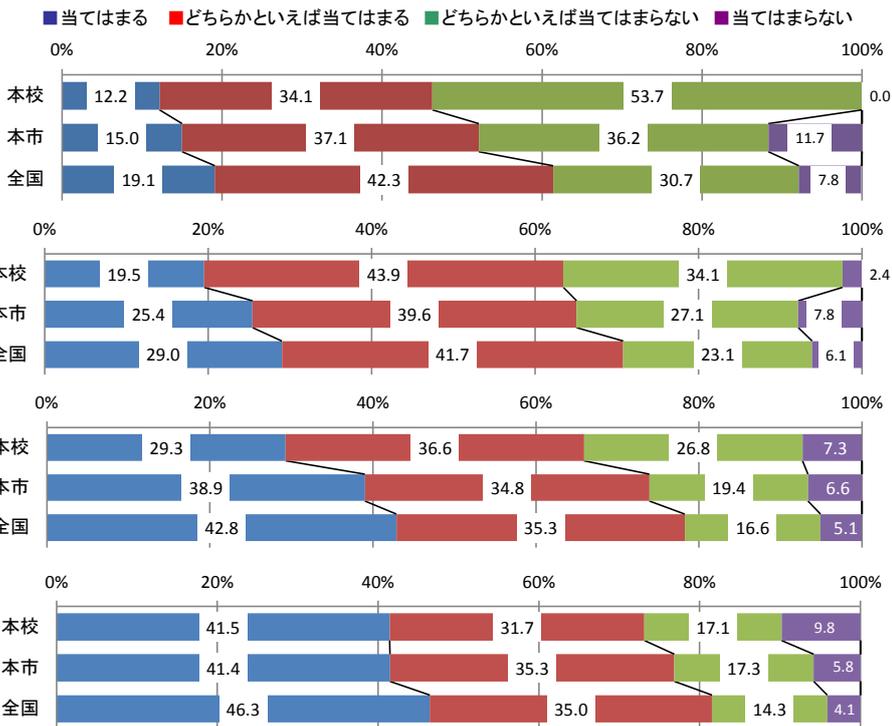
質問番号
質問事項

55
国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか

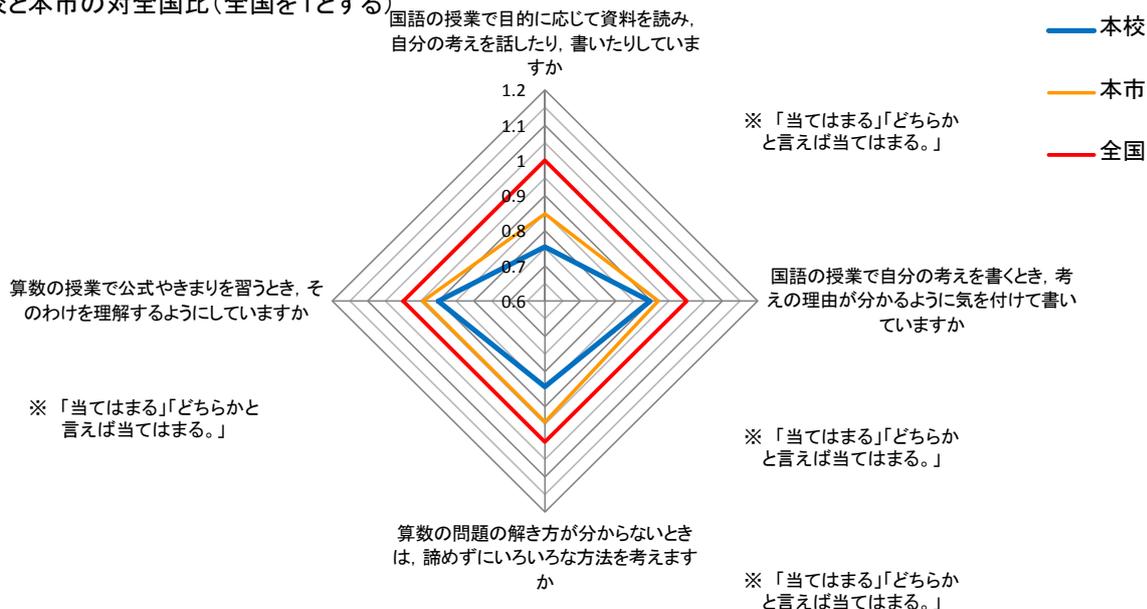
57
国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか

66
算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか

70
算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか



④ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



⑤ 学校における学習状況に関する調査結果の分析

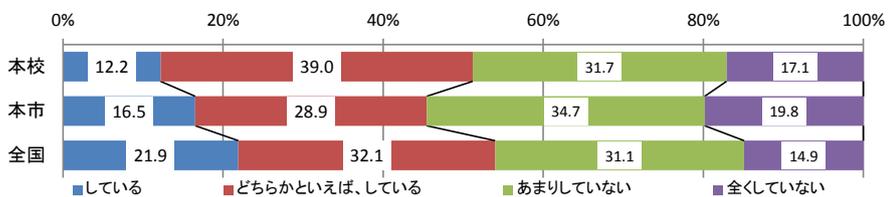
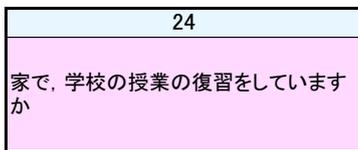
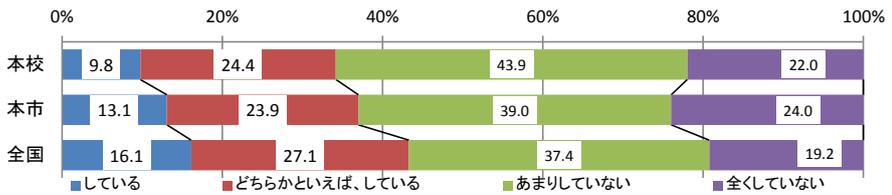
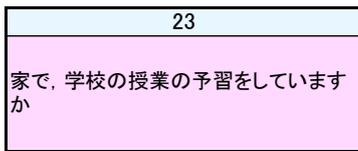
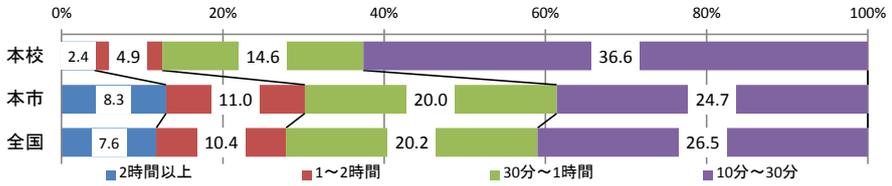
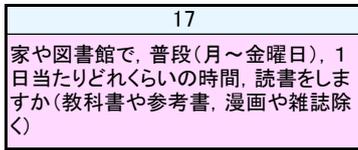
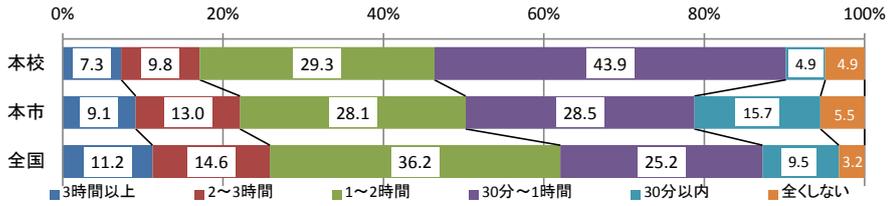
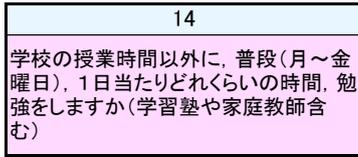
・国語科の授業において、自分の考えを書くようにしている児童が、全国と比較して、依然として低い状況が続いている。授業において、まず「自分の考えを書く」機会を多くもてるよう、授業改善を図っていく。また、自分の考えを書いたら、その「理由」を書くよう段階的に指導するようにする。

・国語科のみならず、各教科の授業において自分の考えを出し、それを文章にして表すことができるよう、3行感想などの活動を位置づける。また、各活動への抵抗感を少なくするため、書き出しをスムーズにするワークシートなどの手だてを積極的に講じる。

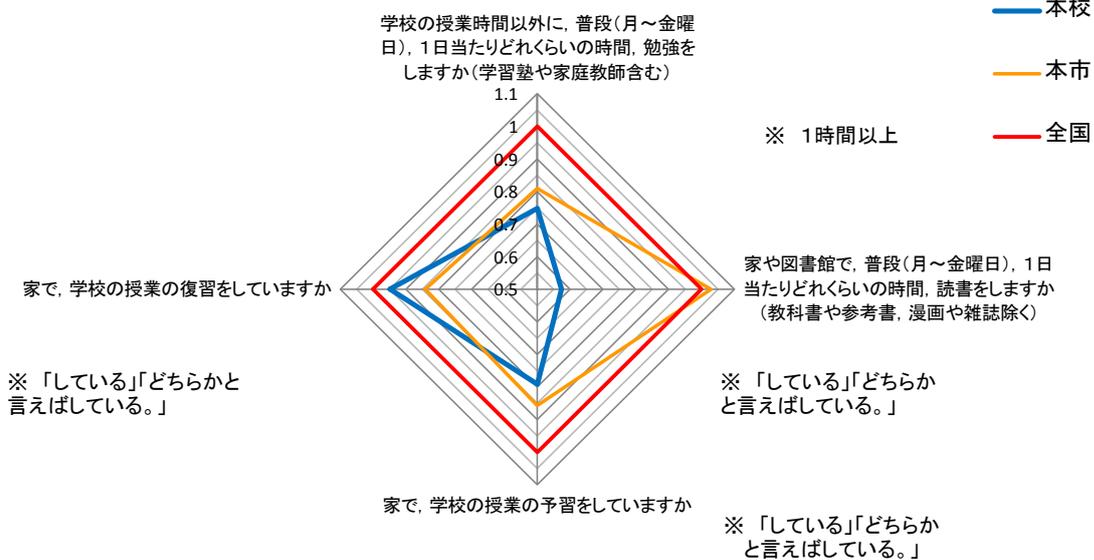
・算数科において、難しいと感じる問題に対して諦めずに多様な方法を考える児童が全国と比較して少ない。また、公式やきまりのわけを理解している児童も少ない。授業における「見通し」の段階で図や表などを用いて問題把握させ、多面的に考えることができるようにする。また、公式やきまりの指導では、教師の一方的な教え込みにならないよう、児童相互の気付きを大切にしながら問題解決学習を行う。

2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

① 家庭学習習慣に関する調査結果



② 本校と本市の対全国比(全国を1とする)

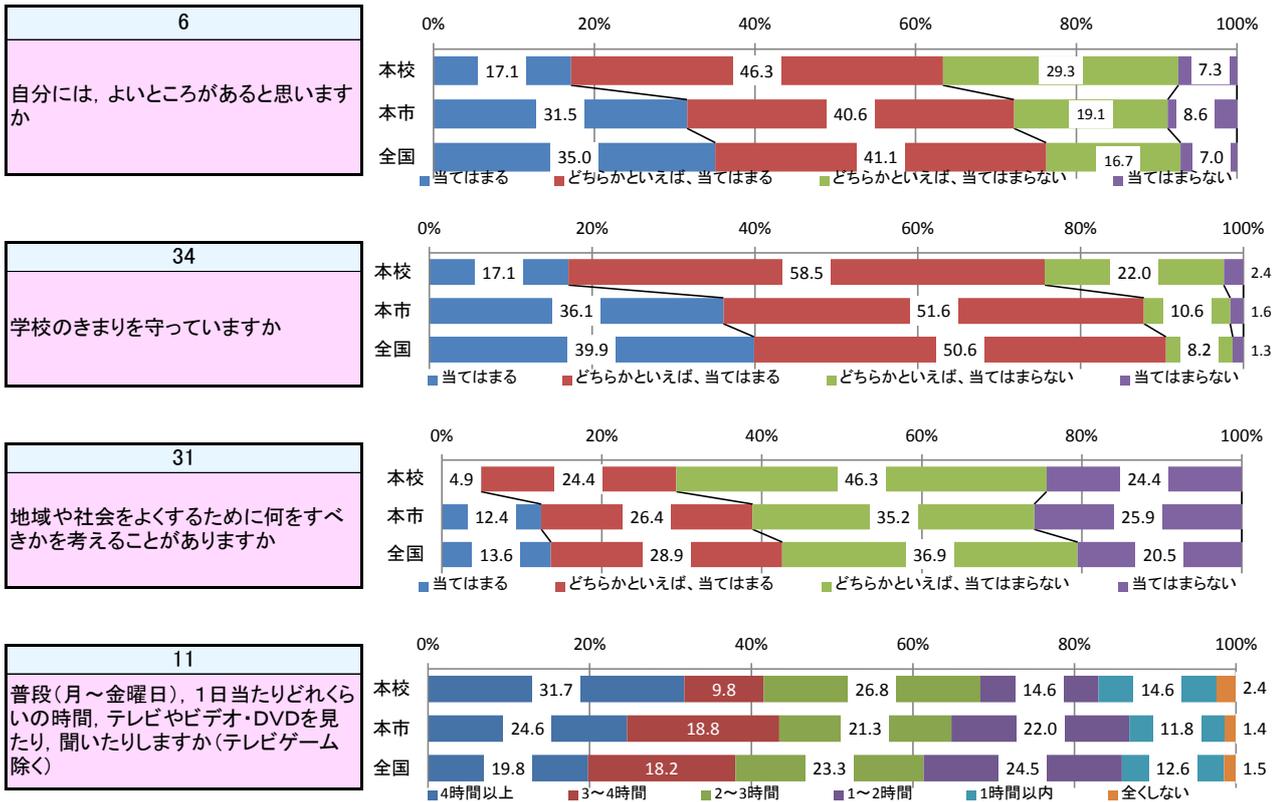


③ 家庭学習習慣に関する調査結果の分析

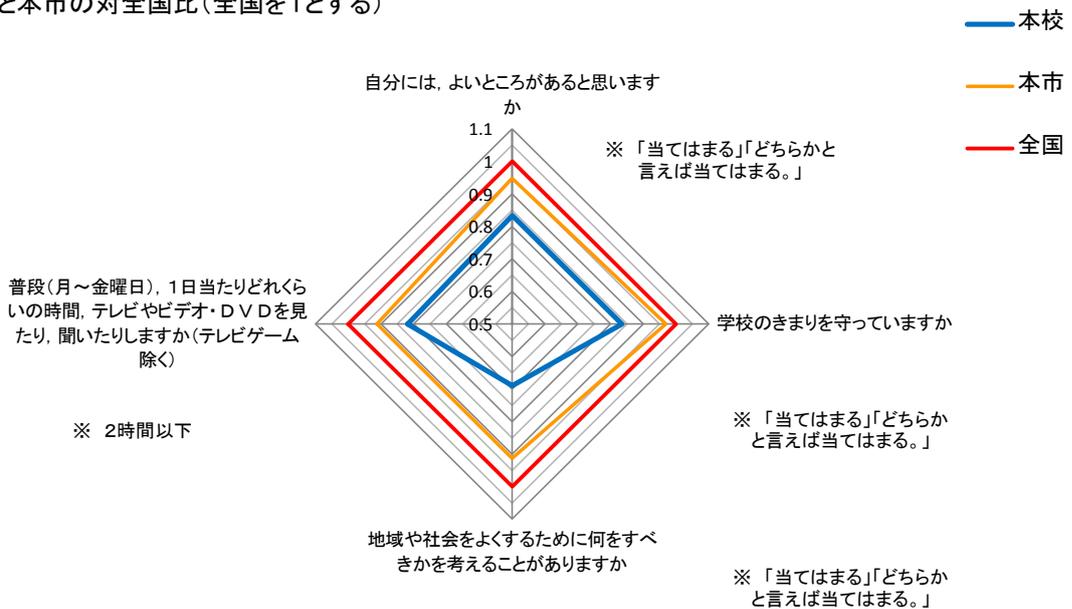
・1時間以上学習している児童の割合が改善傾向にあり、30分以下の児童は大幅に減少している。本校においては、目安となる学習時間を学年×10分+10分と定めているため、家庭学習の仕方について、家庭学習チャレンジハンドブックをもとにした「しおり」を作成し、全家庭に配布する予定である。

・一日30分の読書についても改善傾向にあるが、依然として全国平均を下回っている。週1回の読書タイムで教師自身が気に入った本を紹介して読み聞かせたり、図書委員会が独自の集会を開いたりといった取組を計画していく。

④ 生活習慣等に関する調査結果



⑤ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



⑥ 生活習慣等に関する調査結果の分析

・自尊感情及び規範意識については、依然として全国平均を下回っている。学校のきまりを徹底していくとともに、「きちんと褒める」指導を積極的に行う必要がある。

・社会や地域への貢献についての意識が全国平均と比較して大きく下回っている。

・テレビ等への接触時間については、改善傾向にあるものの、未だ4時間以上の児童が32%おり、大きな課題となっている。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

※ 「◎」は現在取り組んでいること 「○」は今後取り組むこと 「・」は事例

- ◎ 学力向上のための特設時間の実施
 - ・毎週火曜日の計算タイムや毎週金曜日の音読タイム、新設の「さんさんタイム」(毎週水曜日5校時前の15分間)で全校一斉に実施。
 - ・さんさんタイムの内容について学力向上推進委員会 主題推進委員会で方向性を確認。
 - ・小中連携サポーターを活用し、学習プリント整備や活動の補助を行う。
- ◎ 過去問題、アシストシート、活用力を高めるワークの活用
 - ・アシストシートやWEB問題を計算タイムに行い、基礎基本の徹底を図る。
 - ・活用力を高めるワークや過去問題を日々の宿題や夏休み・冬休み・春休みの宿題として計画的に位置付ける。また、答え合わせの際に、必ず解説を行う。
- ◎ 「既習事項」の活用
 - ・算数科の授業において、毎時間導入時に本時の学習に関わる復習タイムを設定し、フラッシュ教材等を活用して既習事項の確認を行う。
- 日々の授業における「説明」の習慣化
 - ・自分の考えを書く。一人ずつやう。ペアで説明する。などの活動を各教科で取り入れるようにする。

② 家庭生活習慣等に関する取組

※ 「◎」は現在取り組んでいること 「○」は今後取り組むこと 「・」は事例

- ◎ 宿題のスタンダード化(時間・学年別・教科別内容)
 - ・「家庭学習チャレンジハンドブック」を活用した自主学習を推進し、自学ノートを作成する。
 - ・「家庭学習のしおり」を作成し、学習時間、学習内容、学習方法について児童及び保護者への啓発を行う。
 - ・年4回の「3つの花満開大作戦」の結果について分析し、家庭学習についての実態を明らかにするとともに、それに応じた方策を保護者向けの手紙で周知する。
- ◎ ひまわり学習塾との連携
 - ・週2回のひまわり学習塾参加児童に対して、担任と学習指導員が連携し、一人一人の学習内容・学習習慣の定着度について共通理解する機会を設ける。
- 全国学力・学習状況調査の課題と取組等を保護者へ周知
 - ・学校便り、学年便り、3つの花満開大作戦の結果お知らせ等で、結果の概要と今後の対策について周知する。